



知っておきたい 藤前干潟 まめ知識

ごみの埋め立て予定地だった!？

20世紀の末、名古屋市ではごみの量が増え続け、「このままだと埋め立て場所がなくなってしまう」と問題となりました。その時、ごみ埋め立て場の候補になったのが藤前干潟です。しかしそこは、渡り鳥の重要な中継地。自然保護の流れに応じ、自然を守ろうという市民の皆さんの声などによって、計画は中止されました。それ以来、市民・事業者・行政が協力して、ごみ減量に取り組んでいるのです。

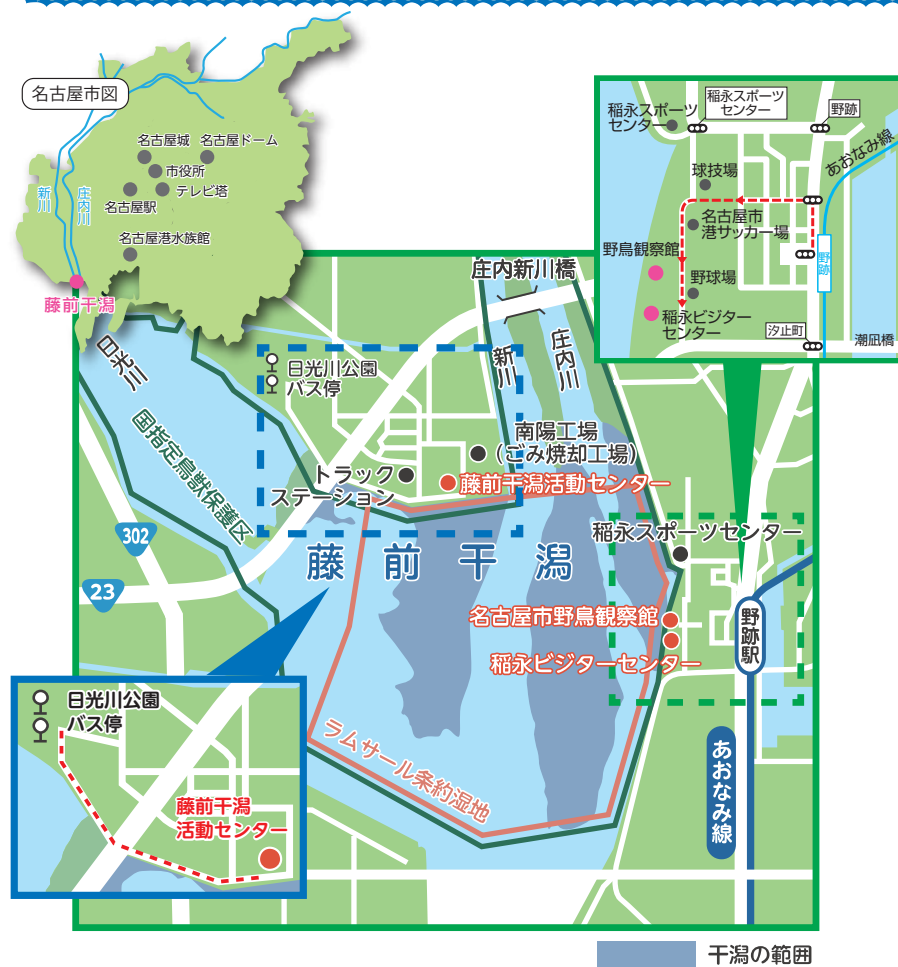


東アジア・オーストラリア地域
フライウェイ
(渡りのルート)

繁殖地
藤前干潟 中継地
越冬地
ジロング市

国際的に重要な渡り鳥の中継地

藤前干潟はラムサール条約に登録された国際的にも重要な湿地です。ラムサール条約とは、重要な干潟や湿地とそこにすむ動物や植物を世界の人々で守っていきこうという約束のこと。1971年にイランのラムサールという町で行われた話し合いで決められたことからラムサール条約と呼ばれています。藤前干潟は2002年11月に登録されました。



名古屋市野鳥観察館

TEL:052-381-0160
 交通:あおなみ線「野跡駅」で下車、徒歩15分
 駐車場あり
 休館日:毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)
 第3水曜日(祝日の場合は第4水曜日)
 年末年始(12月29日～1月3日)

環境省稲永ビジターセンター

TEL:052-389-5821
 交通:あおなみ線「野跡駅」で下車、徒歩15分
 駐車場あり
 休館日:中部地方環境事務所
 HPをご確認ください。

環境省藤前干潟活動センター

TEL:052-309-7260
 交通:市バス「日光川公園」下車、徒歩20分
 駐車場あり
 休館日:中部地方環境事務所
 HPをご確認ください。

[3館共通]

■開館時間:9:00～16:30
 ■入場料:無料

団体利用については事前予約が必要で
 各施設にお問い合わせください

ラムサール条約登録湿地

はようそ!!!

藤前干潟へ

名古屋の南西部にある藤前干潟は、魚やカニなどたくさんの生きものが暮らすワンダーランド! 地球を南北に旅する渡り鳥たちがエサを食べたり、休憩をしたりする大切な場所でもあります。

岐阜の夕立山などから流れ出た水は、庄内川、日光川、新川を通して、
 河口の藤前干潟から伊勢湾へと注ぎます。

山から海へのつながりの中で育まれた大切な藤前干潟。
 みなさんも、この都会に残された貴重な干潟とふれあってみませんか。



名古屋市は2025年1月、湿地の保全・再生
 などに取り組む「ラムサール条約湿地都市」
 として認証されました。
 これからも引き続き藤前干潟の保全・活用
 を推進していきます。

発行

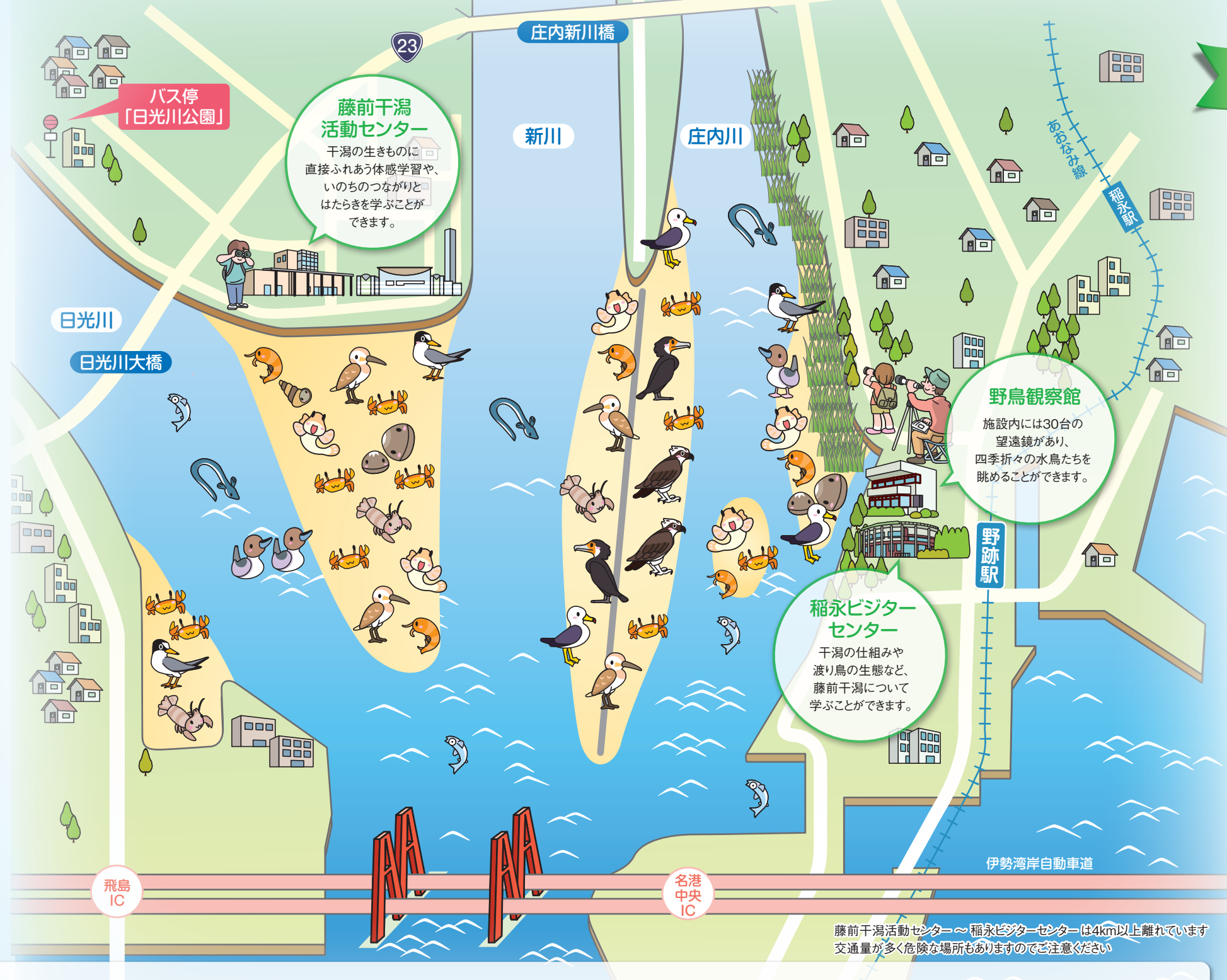
名古屋市環境局環境企画課 環境学習センター

〒460-0008 名古屋市中区栄一丁目23番13号 伏見ライブプラザ13階
 TEL:052-223-1067 FAX:052-223-4199

藤前干潟 四季の自然&見どころMAP

藤前干潟で見られる生きものは、季節によっても変わります。その季節ごとにどんな生きものがいて、どんな見どころがあるのか、分かりやすく地図にまとめてみました。

さあ、この地図を持って藤前干潟を探検してみよう！



藤前干潟で

出会える生きもの



ハマシギ



トウネン



コアジサシ

絶滅危惧種



ヒドリガモ



カワウ



シロチドリ



ミサゴ



チュウシャクシギ



トビハゼ

絶滅危惧種



ヤマトオサガニ



アナジャコ



ヤマトシジミ

春

だんだんと暖かくなっていくのに合わせて、海の水が引き、干潟が広がります。春の日差しにキラキラと光る水面を吹き渡る風が心地よく、渡り鳥ウォッチングをするのには、最高の季節です。

夏

干潟の生きもの観察にぴったりの季節です。潮だまりの石の下にはどんな生きものがあるのかな？ 干潟の表面にできた大小の穴は、どんな生きものが作ったの？ 答えは自分の目で見てみましょう。

秋

さまざまな渡り鳥たちが、南半球への旅の途中に羽を休めに立ち寄ります。「藤前干潟クリーン大作戦！」に参加して海岸を少しでもきれいにしませんか。

冬

夜に大きく干潟が出るようになるこの季節。鳥たちは、夜の闇の中でもエサを食べています。鳥たちが冬を越すために、藤前干潟はとても大切な場所なのです。

守ろう！干潟のマナー

干潟に入る前に

干潟は渡り鳥やカニなど、生きものたちと触れ合える楽しいところですが、危険もあります。藤前干潟に入りたいという人は、必ず「藤前干潟活動センター」（詳しくは裏面参照）におたずねください。

生きものたちの気持ちを考えて

干潟は生きものたちのすみかです。そっとおじゃまする気持ちで入りましょう。また、野鳥にエサをあげてはいけません。釣りをする時は、釣り糸などをそのままにせず、必ず後片付けをしましょう。

干潟で注意すること

干潟の中は気をつけて歩きましょう。泥の深みに足をとられたり、カキやフジツボで足を切ったりすることがあります。また、潮が満ちてきてとに残されないように注意しましょう。

※干潮時間を調べてから干潟に行くようにしましょう。
※絶滅危惧種は「名古屋市版レッドリスト2025」の評価によるものです。